

「好きこそものの上手なれ」

大分県立大分豊府中学校2年 宮崎 湖心

「好きこそものの上手なれ。」

職場体験中、体験先の書店の店長さんに、「なぜこの仕事に就こうと思ったのですか」と質問した答えがそれだった。

なぜ人は働くのか。職場体験のテーマだったけれど、正直自分は「生きるため」しか思いつかなかった。

職場体験 1 日目。書店だし、そんなに大変じゃなさそうだなと思っていた。が、そんな訳なく、あいさつの練習に、本の在庫の確認に、と想像以上の重労働だった。ずっと立ち仕事でいろんなところに移動して確認作業を行うため、足がとても痛くなった。そんな中、店員さんや店長さんは、一切疲れた顔を見せておらず、疲れたところか、笑顔で私のした仕事よりもっと難しい大量の仕事をこなしていた。驚きもしたがそれ以上に、「なんでこんなに仕事を楽しそうにしているんだ…?」という疑問の方が大きかった。私の考える「人が働く理由」は「生きるため」で、「楽しむため」ではないと思っていた。しかし、店員さんたちの様子は「生きるために必死に働いています」というより「働くのが楽しいです」という方が正しかった。

働くことが楽しいのは、働く理由が私と考えた理由と違うからなのだろうか。色んな考えが浮かんだが、結局わからなかった。

職場体験 2 日目。昨日は、謎が深まるばかりだったので、今日こそ「人はなぜ働くのか」の結論にたどり着けるように、と気合いを入れて臨んだ。

昨日と同じように、本の在庫の確認や、本の整理をした。案の定、今日も足は痛くなったし、店員さんたちは笑顔だった。

今日で職場体験は終了なので、店長さんへのインタビューをした。「やりがいは何ですか?」「つらい事がありますか?」「うれしい事は何ですか?」など、皆思い思いの質問をした。「結果が目に見えるのがうれしい」とか、「なかなか売り上げがのびないのがつらい」とか、たくさんの質問に一つ一つ、しっかり、ていねいに答えてもらった。

最後に…、となったところで、私は、

「なぜこの仕事に就こうと思ったのですか。」

と質問した。店長さんは少し間を置いて、

「好きこそものの上手なれ、かな。」

と言った。答えになってないじゃないかと思った。そんな私の気持ちがわかったのか店長さんは言葉を続けた。

「自分は、本のインクの匂いとか、本が、昔から大好きなんだ。」

そう言う店長さんの目は、とても輝いていた。

「本が好きだから、この仕事に就いたんだ。単純だけど、これが一番だよ。」

それではさっきの「好きこそものの上手なれ」はどういう意味なのだろう。

「本屋の仕事は、見かけによらず大変だったろう?」

私は

「はい。」

と答えた。

「でもね、私を含め、ここに勤めている人たちは、“好きだから”へっちゃらなんだ。もちろん、覚えられないいけないことも多くて、どの作業も気をぬいちゃいけないんだけどね。“好きこそものの上手なれ”でがんばれちゃうんだ。」

そうか、“好きだから”楽しくて、何でもできてしまうんだ。店員さんが笑顔だったのも本が好きだから。

「だからね。」

と店長さん。

「君たちも将来、絶対に“好きなこと”を仕事にした方が良いよ。その方が楽しいし。」

私は、今回の職場体験を通して、「好きなことがある事」の大切さを学んだ。「好きこそものの上手なれ」改めて、そのことのすごさがわかった。

将来、私はイラストレーターになりたい。私は昔から絵を描くことが大好きだった。店長さんの言葉で、そう思うことができた。これからは自分の夢のために、「好きこそものの上手なれ」でがんばっていきたい。